

## さまざまな機関と連携した強固なネットワークと独自の活動で動物と人の健康を守り、獣医学の発展に貢献しています

### 日本獣医師会の組織と活動

日本獣医師会は、その前身である「大日本獣医会」の発足から数えて100年以上の歴史を持っています。現在の組織は、戦後、獣医師としての使命を達成するためには、民主的かつ権威ある獣医師の組織が必要であるという気運が高まるなか、昭和23年11月に「社団法人日本獣医協会」として誕生しました。その後、昭和26年に「社団法人日本獣医師会」に改称されて現在にいたっています。

言葉を持たない"患者"である動物たちの健康を守る「動物のお医者さん」としての動物に対する医療の提供をはじめ、食肉・卵・乳等の畜産物の生産から流通に至る安全性の確保と生産性の向上、人と動物の共通感染症の防疫、医薬品の開発・研究、獣医学の教育・研究、動物福祉・愛護、野生動物保護管理等の多岐にわたる役割を担って、獣医師は日々努力を続けています。日本獣医師会は、全国の獣医師の期待と信頼に応える組織作り、ネットワーク作りを目指してきました。

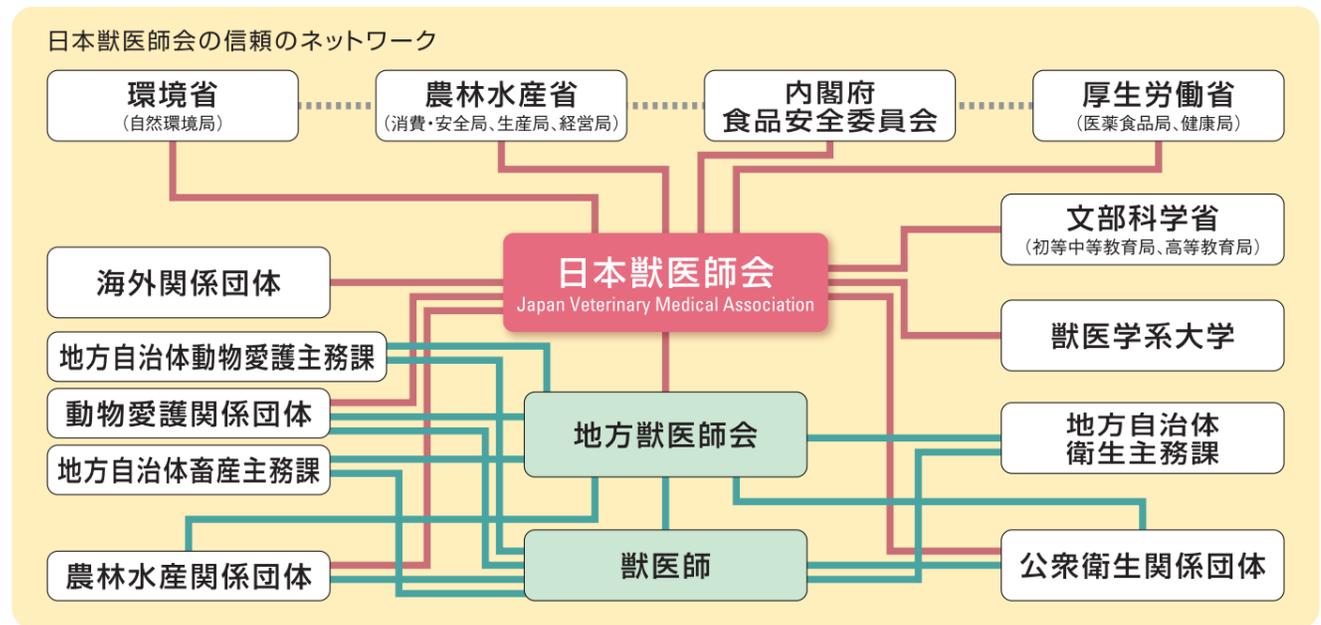
現在、日本獣医師会は、地方獣医師会との緊密な連携をとりながら組織の運営にあたっているだけでなく、関係各省庁や団体とを結ぶ重要なパイプ役も果たしています（下図参照）。また、海外の関係団体との交流など、そのネットワークは広範なものとなり、より一層緊密で揺るぎないものとなっています。

獣医師に求められる課題は、時代の進展とともにますます多様なものになってきています。それと同時に、日本獣医師会でも、時代の変化に対応した環境作りや、さまざまなサポートワークが必要となってきています。

日本獣医師会では、獣医師向けの獣医学術雑誌を刊行しているほか、専門書籍・視聴覚教材の配布、学会・講習会・研修会の開催など、バラエティ豊かな研修プログラムを提供しています。また、獣医界を取り巻くさまざまな問題に対処するための部会委員会を設置して問題解決に向けた検討を行っています。さらに、獣医事に関する調査・研究、動物福祉・愛護精神を普及させるための諸活動をはじめ、会員である獣医師（現在約28,000人）の福祉や厚生に係る事業なども行っています。

このほか、グローバルな事業として、世界獣医学協会（WVA）およびアジア獣医師会連合（FAVA）のメンバー国として、世界各国の獣医師会と連携して、技術情報の交換や人事交流だけでなく、世界大会や学会の開催・参加など、獣医学術交流事業にも積極的に取り組んでいます。

平成24年4月1日に公益社団法人に移行した日本獣医師会は、引き続き獣医師の使命を着実に果たすとともに、人と動物が共存する豊かで健全な社会の形成に一層努めています。



### 獣医学術の振興・普及のための取り組み

日本獣医師会では、学術分野別の学会活動を運営する機関として、「日本産業動物獣医学会」「日本小動物獣医学会」「日本獣医公衆衛生学会」といった3つの学会があります。そこでは、獣医学術の振興や普及を図るため、全国規模での学会年次大会を開催するとともに、特に優秀な研究業績に対して獣医学術賞を授与し、獣医学術の振興を促進しています。



人と動物の「いのち」の輝きのために、社会のニーズに応え、国民生活を向上させる力となる



### 次代を担う人材育成のための支援

獣医師は、日々進歩する学問的知識や技術に対応していかなければなりません。そのため、日本獣医師会では、人材育成事業として、獣医学術情報媒体として日本獣医師会雑誌の発刊、教材の作成をはじめ、家畜衛生や食品の安全管理、最新の動物診療技術など、幅広い分野での教育・研修活動を支援しています。

また、さまざまなプログラムを通して努力を重ねる獣医師をサポートし、社会に貢献できる獣医師をひとりでも多く育成するような取り組みも行っています。

### 国民生活に直結する問題の検討と提言

日本獣医師会では、獣医師が活動するそれぞれの分野ごとに部会を設置しています。ここでは、各分野におけるさまざまな課題を検討する委員会が設けられていますが、獣医療に関わる問題のほとんどが国民生活に直接結びつくものというのが現状です。各委員会では、日夜真剣な議論が繰り広げられ、検討結果は報告書としてまとめられて、関係省庁などに対する政策提言として役立てられています。



### 獣医師の仕事を一般に理解してもらうために

さまざまな場所で活動する獣医師の仕事を広く一般に知ってもらうことも重要なことといえます。日本獣医師会では、「動物感謝デー」など一般参加型のイベントを開催することで、多くの方々に獣医師の仕事を理解してもらえるような取り組みを行っています。このようなイベントを通して、安心・安全な暮らしへの取り組みを理解してもらうとともに、動物たちとの適切なふれ合い方などを学んでほしいと考えています。